

# 森林・林業分野の CSR 活動に対する企業の意向と課題 ー 東証二部、大証二部等の上場企業を対象としたアンケート調査からー

○小川 繁幸・大石 卓史・中尾 友一（自然産業研）

## はじめに

近年、地球温暖化や生物多様性保全等への関心の高まりを背景に、森林・林業分野の CSR 活動が増加しつつある。しかしながら、現在の森林・林業分野の CSR 活動は大企業での実施割合が高く、中堅企業や中小企業においては、関心・意欲はあるものの、実際の活動はまだ行うことができていないケースも多い。一方、日本の森林・林業を支える山村を活性化するためには、山村と都市との交流促進により、山村の理解者、協力者である企業等を増やすことが大きな課題となっている。

そこで、東証二部、大証二部等の上場企業を対象に、CSR 活動の状況や課題、今後の意向を明らかにし、森林・林業分野での企業の CSR 活動の推進について考察する。

## 調査方法

東証二部、大証二部、名証単独、札証単独、福証単独に上場している各企業を対象に、平成 24 年 1 月～2 月にかけて郵送方式のアンケート調査を実施した（有効回答数 108 社）。※林野庁委託事業「平成 23 年度森林・林業分野での CSR 活動の掘り起こしに向けたニーズ等調査委託事業」の一環として実施した。

## 結果と考察

東証二部、大証二部等の上場企業においても、比較的規模の大きい企業を中心に、既に何らかの CSR 活動の実施がなされている。環境保全や地域社会貢献を目的とし、行政機関と連携しながら CSR 活動を展開しているケースが多く、また、CSR 活動の効果として、地域との交流や社員・従業員間での交流の促進に手応えを感じているケースが多くなった。ただし、CSR の効果を把握できていない企業も一定程度存在した。

森林・林業分野の CSR 活動については、既に活動を実施している企業が約 25%、関心がある企業が約 35%となった。また、事業内容毎に CSR 活動の実施内容にも一定の傾向が見てとれた。森林・林業分野の CSR 活動を実施する上での課題としては、本業との関係性の整理や実施体制の整備、予算の確保、成果・効果の明確化などがあげられた。

今後は東証二部、大証二部等の上場企業の参画の促進に向けて、支援体制の強化・機能拡充等が求められる。

## 引用文献

- (1) 株式会社自然産業研究所『平成 23 年度森林・林業分野での CSR 活動の掘り起こしに向けたニーズ等調査委託事業 報告書』2012 年

（連絡先：小川 繁幸 ogawa@ri-nc.co.jp）